

**厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
総合研究報告書**

**がん診療連携拠点病院等の実態把握とがん医療提供体制における均てん化と集約化のバランスに関する研究  
研究代表者 若尾 文彦 国立がん研究センター がん対策研究所 事業統括**

**研究要旨：**  
 がん対策基本法の基本理念として掲げられている「がん医療の均てん化」を目指して、がん診療連携拠点病院等の整備が進められてきた。法の理念は患者の受ける医療の均てん化であり、必ずしも医療提供側の均一化をば一致しないものの、特に、小児がん、希少がん、がんゲノム医療などの高度な医療の提供については、その乖離が大きくなり、医療提供側については、集約化を一部行いつつ整備するように制度設計の必要性が顕在化してきた。それ以外にも医療提供側については、地域的な格差や拠点病院間の差異に関する懸念もあり、がん診療連携拠点病院の指定要件が過度に詳細化し各現場の状況と適合しないのではないかとこの疑念が生じてきており、現状の正確な把握と多様な意見を収集、さらには現場であるがん診療連携拠点病院からの意見を収集して、今後の方向性を検討すべき状況にあると考えられた。本研究においては、最終年度に予定されている、各種類のがん診療連携拠点病院の指定要件の改訂に資するために、意見調査や意見交換会を行い、必要な情報を提供してきた。がん診療連携拠点病院の意見・状況調査、現況報告その他のデータから実態の記述を行い、拠点病院などの指定に関する基礎資料が提供された。また、意見調査からは、小児がん長期フォローアップやAYA 世代患者のサポートに、成人拠点が困難を感じていることや、相談支援、苦痛のスクリーニング、セカンドオピニオンの確保に関する体制など、様々な実態が明らかになった。さらには、最終年度においては、がん診療連携拠点病院等の指定要件のワーキンググループの構成員による意見交換会を開催して、予備的な論点整理を行うとともに小児、ゲノム医療に対して設立された他の研究班との意見・情報交換を行うことで、指定要件の設定を円滑化した。

<p><b>研究分担者氏名・所属機関名・職名</b></p> <p>谷水 正人 四国がんセンター 統括診療部・病院長</p> <p>松本 公一 国立成育医療研究センター 小児がんセンター センター長</p> <p>吉田 輝彦 国立がん研究センター 中央病院遺伝子診療部門 部門長</p> <p>後藤 励 慶應義塾大学 経営管理研究科・教授</p> <p>東 尚弘 東京大学 大学院 医学系研究科公衆衛生学教室 教授</p> <p>市瀬 雄一 国立がん研究センター がん対策研究所 医療政策部・研究員</p>	<p>力武 諒子 国立がん研究センター がん対策研究所 医療政策部・研究員</p> <p>伊藤 ゆり 大阪医科大学 医学研究支援センター医療統計室 室長・准教授</p>
---	--

**A. 研究目的**

平成19年に施行されたがん対策基本法第2条で定められた基本理念の一つとしてがん医療の均てん化が定められている。法律上の均てん化は、患者がその居住地にかかわらず質の高い医療を受けられるようにすることとされている。「患者が受ける」医療の質の確保であるが、しばしば医療提供側の均一的な医療の質の確保と解釈されている。

しかし、実態としては専門医の偏在など地域差が繰り返し指摘されている。均てん化の推進のためには、がん診療連携拠点病院の指定が進められてきており空白二次医療圏を連携により無くし、また、通常の二次医療圏よりも実態に即したがん医療圏を設定することを促すなどの、工夫が絶えず検討されている。

また、希少がん、小児がん、ゲノム医療と、がん対策の対象が資源の限られている医療に進展していくにつれて、医療提供側は集約化した上で、連携

体制を構築することで、患者の受ける医療の質を確保することが必要になってきている。特に資源は有限であり、例えば希少がんの治療が全ての施設で分散すると一定程度患者の数が必要な臨床試験は成り立たないなどの問題もある。そのため、第3期のがん対策推進基本計画では一部集約化すべき事項があると指摘された。

これらのバランスをとってがん診療連携拠点病院の整備を進めていくことが必要である。3年目にあたる令和4年度のがん診療連携拠点病院の指定要件の見直しの年に当たるため、それに向けた各種調査を行い、円滑に見直しの作業を進めていくことが本研究の目的である。

## B. 研究方法

初年度は患者・家族の意見を収集して、それらをもとに、がん診療連携拠点病院の指定要件に関する意見・現状の調査を行った。2年目にあたる令和3年後半からがん診療連携拠点病院等の指定見直しに関する検討会が開催され、成人、小児、ゲノムの3分野について、それぞれワーキンググループが設置されて具体的な検討が開始された。それに対応して、本研究においては、ワーキンググループの活動を支援するために、その準備としての論点の洗い出しのために、情報収集を行ってきた。

さらに、3年目令和4年8月に各種のがん診療連携拠点病院等の整備指針が発出されたあとは、特に成人の現況報告の情報公開のあり方や、がん診療連携拠点病院が機能しているかどうかの評価を行っていくための検討が行われた。

### 1. 現況把握

#### <がん診療連携拠点病院の調査>

全部の都道府県がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、特定領域がん診療連携拠点病院・地域がん診療病院に対し、指定要件に関する①意見調査および②実態調査を行った。1年目はそのための予備調査として、都道府県拠点病院、及び地域拠点（一般病院、大学病院）の施設長やがんの中心的な役割を果たしている担当者に対して意見を聴取しつつ、調査票を作成し、それを2年目に実施した。調査方法は郵送による質問紙による調査と、エクセル票を活用した調査を並行して行い、回答者が回答方法を選択できるようにした。回答者は原則として施設管理者に依頼し、ただし、施設内の担当部署が記入して施設の代表回答とすることも想定する旨明記した。調査は2年目の5月から開始し7月までで回収・集計した。

この結果は全般にまとめるとともに、特に苦痛のスクリーニングの実施状況について、その状況や、使用しているスクリーニングツールに関する自由回答なども併せて解析を行った。

### 2. データによる検討

#### <現状の把握>

過去の現況報告の解析として2018年のがん診療連携拠点病院現況報告と、院内がん登録、DPCデータを使って、以下解析を行った。

- ①2018年当時の現況報告による満たしていない指定要件に関する解析
- ②院内がん登録の件数と手術件数などの比較
- ③がん診療連携拠点病院の標準治療実施割合

さらに、追加のデータに関して以下の解析を行った。

#### ④治療実績に関する公開状況

公開状況は実際に各施設のホームページにアクセスして、治療実績の公表の有無を確認した。

#### ⑤全国がん登録による分析

データ利用の申出を行い、募集要項で要求されている二次医療圏における拠点のカバー率など必要な指標について算出した。2年目までにデータ活用に関する利用申し出を行い、提供を受けて3年目に解析した。

### 3. 意見聴取

#### <厚労省ワーキンググループ（成人）の構成員による意見交換>

後半からがん診療連携拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループの構成員と、研究班班員を交えて意見交換を数回行った。ここでは、指定要件における意見を、毎回事前に聴取しそのまとめを見ながら議論するという形式を以て効率化した。

#### <小児がん拠点病院の検討>

小児がん拠点病院の指定要件ワーキンググループに対応するために、研究班「小児がん連携病院を対象とした小児がん医療の質を表す指標(QI)の作成と小児がん連携病院における適応に関する研究」と連携してその調査結果による解析や、その他の調査結果や資料をまとめて検討することで、現状の論点・課題を整理した。

#### <がんゲノム拠点病院の指定要件検討>

がんゲノム拠点病院の指定要件の検討に関連する厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「がんゲノム医療推進に向けたがん遺伝子パネル検査の実態調査」と連携をとり、調査結果の説明・提供受けるとともに、(株) インテージヘルスケアが独自に医師、がん患者・がん患者家族、一般生活者に対して実施した、との連携などの情報交換を行った。

(倫理面への配慮)

施設アンケートについては、個人の意見など個人情報ではなく、施設としての姿勢に関する回答を求める性質上、国立がん研究センター倫理審査委員会の基準においては倫理審査を要しない調査として位置づけられた。現況報告の解析についても公開情報を用いた解析であることから、倫理審査は要しない。院内がん登録とDPCデータを用いた解析については、国立がん研究センターの倫理審査委員会についてその研究計画を申請し承認を得て行った。

## C. 研究結果

### 1. 現況把握

がん診療連携拠点病院などに対する実態及び愛犬調査のアンケートは、451施設中256施設(都道府県拠点48施設、地域拠点193施設、地域がん診療病院15施設)から回答を得た(回答率56.8%)

#### ①意見調査

全拠点病院で行うよりも一部の拠点病院で行うことが必要と、回答者が多く考えていたのは、「長期フォローアップの小児がん患者の支援体制」65.1%であり、続いて、臨床研究コーディネーターの配置(43.5%)、生殖機能温存の治療(41.6%)などが挙げられた。また、同じく実施が困難である項目について、コロナ禍の影響とともに聴取したが、コロナ禍関係なく困難との回答が多かった項目は長期フォローアップ(42.0%)、地域連携クリティカルパス(32.2%)、臨床研究コーディネーターの配置(31.8%)、全患者に対する社会的問題のスクリーニング(29.4%)であった。

コロナ禍により困難になったものは研修会やカンファレンスなど、通常は対面で行われる事項が多く挙げられた。オンラインも自由記載で対策としての意見は見られたもののそれを医師・患者ともに慣れていない状況で行うのは簡単ではないと言ことであった。

人員の確保は緩和ケアチームにおける精神科医、医療心理士などをはじめとして様々な職種が困難であると挙げられた。人員配置は医療の質の確保のために必要な構造であるが、専門家は数に限りがあるため、現存の人員を教育するなどの代替措置が望まれるとの記載も見られた。

各項目や全体についての自由記載も広く収集したが、指定要件の見直しに際しては、その意義を再検討し、その意味するところを含めて説明を十分にすることが必要との意見があり、指定要件の周知の在り方についても検討が必要と考えられた。

#### ②実態調査

苦痛(身体・精神・社会)のスクリーニングは、

話題に挙がることとおおいが、実態としては8割が入院時に行うことが最多であった。がん相談支援センターの紹介については「全患者に紹介する体制がある」と答えたのは47.4%に過ぎず、都道府県拠点(42.6%)よりも地域拠点(50.3%)の方が高い結果となった。しかし、全患者に紹介する方法は92%が書面と回答し、口頭説明は65%、また相談員が訪問する、あるいは逆に立ち寄るように案内しているのは2割前後であった。

AYA支援についてはAYA患者の洗出しをしている病院は、全体に23.3%に過ぎなかったが、AYA特有のニーズを踏まえた支援をしているという回答は、76%に上り、その支援は85%が相談支援センターを挙げた。

セカンドオピニオンは、依頼しやすい体制としては、不利益が無いことを必ず説明が58.5%であったが、一方で、患者が主治医に直接依頼しなくてもよい体制がある、としたのは、36.8%であった。

### 2. データからの検討

①2018年当時の現況報告による満たしていない指定要件に関する解析については、現況報告上何らかの未充足が見られたのが3割に上った。前回改定から間もない時期であったことも影響している可能性があった。

②院内がん登録の件数と手術件数などの比較  
院内がん登録の件数と手術などの治療件数については、前者が少なめに集計されることが確認された。また、変動係数からは後者のばらつきが前者よりも大きいことが観察された。

③がん診療連携拠点病院の標準治療実施割合  
大腸がん標準治療である、Ⅲ期の術後化学療法において、Q1では、8週以内の術後化学療法としてのことから、これを解析した。Q1の全体としての準拠率は52.4%であったが、化学療法を行った患者のうち8週間以内の施行は86.5%であった。施設属性間でも比較したが、がんセンターで高く次に総合病院型であった。

#### ④治療実績に関する公開状況

現況報告では全施設が公開していることになっていたが、実際にウェブサイトで確認できたのは334施設83%であった。がん種別の治療件数の公表は、24%、全体手術件数は56.7%であった。

がん登録実務者が多い方が公開している割合は多かったものの、各項目で統計的有意差はなかった。

#### ⑤全国がん登録の分析

受療場所については、都道府県内簡潔割合が85%、二次医療圏は66%であった。これらはがん種によ

って傾向がかわり、また、都道府県内、二次医療圏内、でも傾向が異なった。3年生存率を用いた地理的なばらつきも検討され、一定のデータが提供された。また、データの可視化も一定の試みがなされた。

### 3. 意見交換会

＜厚生労働省指定要件（成人）ワーキンググループ構成員＞

2年目の12月以降、3年目の6月にかけて厚生労働省がん診療連携拠点病院の指定要件に関するワーキンググループの構成員での予備的な意見交換を行った。最初の2回は総論的ながん診療連携拠点病院の役割や、見直しの方針、集約化/均てん化対象の区別などを話し合い、残り各論の現状に関する意見交換をした。主に、がん診療連携拠点病院とは「国および都道府県のがん対策の一翼を担う存在であること」が再確認されて、それを指定要件において明確化されることとなった。その他、用語の定義や、「望ましい要件」の意味づけなどについての検討が行われた。

＜小児がん拠点病院に関する検討＞

小児がん拠点病院の指定要件ワーキンググループに対応するために、研究班やその他の調査結果をまとめて検討した。

要件とすべき診療患者数は小規模の施設が多い実態が明らかであった。また地域によっては、小規模施設しかない都道府県もあることから地域の事情を考えた指定をすることとなっている。

長期フォローアップについてはそれを実施する施設を類型3として分類されているが、他の類型をかねている施設もある。成人診療科が中心となるべきものであるが、小児がん経験者が受診を断られたり、受診をしても情報が無いために十分な診療が行えないという問題があるために、今後様々な整備を進めていく必要がある。AYA がんに関しても、まだ言葉の認知度も十分ではない現状が明らかであることから、啓発が必要であると考えられた。

＜がんゲノム医療中核拠点病院等＞

ゲノム医療のニーズに応じて、適切な診断や治療に円滑にアクセスできるようにするためには、診療提供側としては、都道府県診療連携協議会において提供体制を確認するとともに、指標によって目標を設定すべきである。ニーズに対応するCGPのキャパシティによって対象症例の選択も必要であるし、オンラインや旅費支援などの制度が必要と考えられる。また、現在は、労働集約的な体制であり、医師の負担が大きい問題などが指摘され、その対策を考える必要があるとされた。

## D. 考察

### 1. 現状把握

これまでは、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会などで意見調査や意見交換が行われてきたが、今回の調査はそれだけでなく、全がん診療連携拠点病院を対象に調査を行ったことで、広い範囲での意見の収集や実態把握が行えたと考えられる。通常、現況報告では指定要件の充足を含む、状況の把握は行われているが、現況報告自体はそのまま拠点病院の指定の継続可否の判定に使われるために、努力して「充足している」と回答することになる。このような意見調査において「充足を継続可能と考えるか」といった質問をすることでその困難性について把握することができるとともに、具体的な指定要件の充足に対する意見や、その内容を実態調査で知ることができるのは改定に向けた検討に役立つと考えられた。一方で意見は勘案しつつ代替案を検討すべきか、それとも困難を乗り越えて整備を進めるべきかについては、バランス感が難しいと考えられた。

コロナ禍による影響については、アンケート時点から、総合報告書の執筆時点、さらには今後も、社会的な適応状況が変わってきているところがあり、オンラインによる会議・研修などは急速に普及一般化していると考えられる。また、コロナ禍が終わった際に、会議・研修をオンラインから対面に戻すのか、といった点については引き続き検討の余地がある。

### 2. データからの検討

またデータの解析からは院内がん登録の特性など様々なことが判明したと考えられ、何を使うべきかなどは検討の余地がある。情報公開のあり方についても、施設毎の公開の申告とホームページを実際に検索したところで差異が生じている原因については、いくつかの理由が考えられるが、公表をホームページ以外の方法で行っているとすると、今の時代で十分といえるのかを検討しなければならない。また、もしその差異の原因が、自己申告の時期と、調べた時期の違いにあるとすると、ホームページ上の公開は継続性に問題があることになる。

また、今回の調査では特に検討していないが、個別の施設での情報公開は医療機関の広告制限に留意すべきなことや、他施設との比較がしづらい、あるいは、集計条件が異なってしまうことがある。がん診療連携拠点病院の指定要件においては、都道府県単位でがん診療連携協議会を開催し、そこでの情報公開を考えることも示されており、これらも実際の情報公開の方法を考えるときには検討しなければならない。

### 3. 意見交換会

成人の拠点病院の指定要件については制度の開始から時間も経過しており様々な改善点や検討すべき論点があることから、公式なワーキンググループに資する整理を、研究班で行うことは一定の成果があったと考えられる。公式な検討の場というのはどうしても不足しがちであるために、非公式な検討を適宜付加しながら今回のような形で検討するのは、指定要件のように直接、全国の施設に影響のあるものを検討する際の手法として非常に有用であると考えられる。また、小児、がんゲノムに関して検討する研究班が他に設定されていることにも鑑みて、独立した検討と連携・意見交換を行うことは多角的に検討を進めるうえで有用と考えられた。

#### E. 結論

本研究においては、関係者それぞれの問題意識を総合し、また、現況報告による解析から、現在のがん診療連携拠点病院の種別や地域差などが明らかになり、また、がん診療連携拠点病院等の指定要件の検討に向けた基礎的なデータや意見収集を研究班によって提供する新しい試みは成功したと考えられる。特に成人拠点において、指定要件を検討するワーキンググループに並行して意見交換や詳細な検討・調整が行えたことにより、多様な意見やデータを集約して検討を円滑に進めるモデルとなった。

#### F. 健康危険情報 なし

#### G. 研究発表

R2 年度  
(雑誌)  
若尾文彦

1. Takayama T, Yamaki C, Hayakawa M, Higashi T, Toh Y, Wakao F. Development of a New Tool for Better Social Recognition of Cancer Information and Support Activities Under the National Cancer Control Policy in Japan. *J Public Health Manag Pract*. 2020 Mar 6. doi: 10.1097/PHH.0000000000001155. Online ahead of print. PMID: 32175927
2. Hirano T, Shobayashi T, Takei T, Wakao F. Exposure Assessment of Environmental Tobacco Aerosol from Heated Tobacco Products: Nicotine and PM Exposures under Two Limited Conditions. *Int. J. Environ. Res. Public Health* 2020, Volume 17, Issue 22, 8536
3. Toh Y, Inoue Y, Hasyakawa, M, Yyamaki C, Takeuchi, H, Ohira M, Matsubara H, Doki Y, Wakao F, Takayama T, Creation and

provision of a question and answer resource for esophageal cancer based on medical professionals' reports of patients' and families' views and preferences In J, Nakamura Y, Mikami H, Kusakabe M, Saruki N, Wakao F, Nagase H. *Matters of data openness and KapWeb, a web tool of multi - cancer survival analysis for cancer survivors.* *Cancer science* <https://doi.org/10.1111/cas.14788>

4. 高山 智子, 八巻 知香子, 早川 雅代, 若尾 文彦, 木内 貴弘 *がんコミュニケーション学で期待されるもの がん対策基本法および第 3 期がん対策推進基本計画からの実践と研究への示唆*. *日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌* 10 巻 1 号 Page55-67(2019.06)
5. 瀬在 泉, 谷口 千枝, 平野 公康, 若尾 文彦 *全国 5 ヶ所で実施した看護職に対する禁煙支援研修会の効果 研修会前後の比較*. *日本禁煙学会雑誌*(1882-6806)15 巻 3 号 Page70-79(2020.09)

#### 東尚弘

1. Miyamoto K, Wakabayashi M, Mizusawa J, Nakamura K, Katayama H, Higashi T, Inomata M, Kitano S, Fujita S, Kanemitsu Y, Fukuda H. Evaluation of the representativeness and generalizability of Japanese clinical trials for localized rectal/colon cancer: comparing participants in the Japan Clinical Oncology Group study with patients in Japanese registries. *Eur J Surg Oncol*. 2020 Sep;46(9):1642-1648. doi: 10.1016/j.ejso.2020.04.005. Epub 2020 Apr 18
2. Tanaka K, Kandori S, Nitta S, Chihara I, Kojo K, Nagumo Y, Kimura T, Kojima T, Kawai K, Okuyama A, Higashi T, Nishiyama H. Characteristics of penile cancer in Japan: An analysis of nationwide hospital-based cancer registry data. *Int J Urol*. 2020 Jun;27(6):538-542. doi: 10.1111/iju.14247.
3. Kojo K, Kawai K, Kawahara T, Kimura T, Kandori S, Nagumo Y, Nitta S, Kojima T, Okuyama A, Higashi T, Nishiyama H. Recent malignant testicular tumor trend in Japan, a country with an aging population: a large-scale study of 2012-2015 hospital-based cancer registry data. *Jpn J Clin Oncol*. 2020 Sep 28;50(10):1201-1208. doi: 10.1093/jjco/hyaa110.
4. Nagumo Y, Kojima T, Shiga M, Kojo K, Tanaka K, Kandori S, Kimura T, Kawahara T, Kawai K, Okuyama A, Higashi T, Nishiyama H. Clinicopathological features of malignant urachal tumor: A hospital-

based cancer registry data in Japan Int J Urol. 2020 Feb;27(2):157-162.

5. Ishii T, Nakano E, Watanabe T, Higashi T. Epidemiology and practice patterns for male breast cancer compared with female breast cancer in Japan. *Cancer Med*. 2020 Aug;9(16):6069-6075. doi: 10.1002/cam4.3267. Epub 2020 Jul 1
6. Kimura T, Kawai K, Kandori S, Nitta S, Kojo K, Nagumo Y, Negoro H, Okuyama A, Higashi T, Kojima T, Nishiyama H. Impact of centralization in primary retroperitoneal sarcoma treatment: analysis using hospital-based cancer registry data in Japan Int J Clin Oncol 2020 Sep;25(9):1687-1694. DOI: 10.1007/s10147-020-01709-7
7. Kawai A, Higashi T, Shibata T, Yoshida A, Katoh Y, Fujiwara Y, Nishida T. Rare cancers in Japan: definition, clinical features and future perspectives. *Jpn J Clin Oncol*. 2020 Sep 5;50(9):970-975. doi: 10.1093/jjco/hyaa121.
8. Motoyama S, Maeda E, Iijima K, Sato Y, Koizumi S, Wakita A, Nagaki Y, Fujita H, Yoneya T, Imai K, Terata K, Minamiya Y, Higashi T. Does Esophagectomy Provide a Survival Advantage to Patients Aged 80 Years or Older? Analyzing 5066 Patients in the National Database of Hospital-Based Cancer Registries in Japan. *Annals of Surgery*, 29 Dec 2020, Volume Publish Ahead of Print – Issue. DOI: 10.1097/sla.0000000000004437
9. Ren N, Nishimura A, Kurogi A, Nishimura K, Matsuo R, Ogasawara K, Hashimoto Y, Higashi T, Sakai N, Toyoda K, Shiokawa Y, Tominaga T, Miyachi S, Kada A, Abe K, Ono K, Matsumizu K, Arimura K, Kitazono T, Miyamoto S, Minematsu K, Iihara K. Measuring Quality of Care for Ischemic Stroke treated with Acute Reperfusion Therapy in Japan: The Close The Gap-Stroke. *Circulation J*. 2021 Jan 25;85(2):201-209. doi: 10.1253/circj. CJ-20-0639.

谷水正人

1. 日野 佳織, 谷水 正人他 : 高齢者食道癌に対する根治的化学放射線療法の忍容性に関する検討 : 癌と化学療法.47 巻 11 号.1577-1581.2020

松本公一

1. 松井 俊大, 庄司 健介, 寺島 慶太, 三上 剛史, 小村 誠, 松本 公一, 宮入 烈 : 小児がん患者および造血細胞移植患者に対する抗菌薬適正使用支援プログラムの効果.日本小児血液・がん学会雑誌(2187-011X)57 巻 3 号 Page264-

270(2020.11)

2. 高橋 彩, 後藤 清香, 加藤 元博, 安部 美樹子, 中村 有希, 鈿持 瞳, 森田 秀一, 松本 有子, 松本 公一 : 患者と医療者に「優しい」環境をめざした無菌室の新設 : 日本造血細胞移植学会雑誌 (2186-5612)9 巻 1 号 Page46-49(2020.01)

吉田輝彦

1. Yoshihama T, Hirasawa A, Sugano K, Yoshida T, Ushiyama M, Ueki A, Akahane T, Nanki Y, Sakai K, Makabe T, Yamagami W, Susumu N, Kameyama K, Kosaki K, Aoki D. Germline multigene panel testing revealed a BRCA2 pathogenic variant in a patient with suspected Lynch syndrome. *Int. Cancer Conferenc J*, 10:6-10, 2021 Oct 9. <https://doi.org/10.1007/s13691-020-00449-9>,
2. Ohmomo H, Komaki S, Ono K, Sutoh Y, Hachiya T, Arai E, Fujimoto H, Yoshida T, Kanai Y, Sasaki M, Shimizu A. Evaluation of clinical formalin-fixed paraffin-embedded tissue quality for targeted-bisulfite sequencing. *Patho Int*. 71:135-140, 2021. 2020 Dec 17. Doi: 10.1111/pin.13054. PMID: 33333623.
3. Yamaguchi K, Kasajima R, Takane K, Hatakeyama S, Shimizu E, Yamaguchi R, Katayama K, Arai M, Ishioka C, Iwama T, Kaneko S, Matsubara N, Moriya Y, Nomizu T, Sugano K, Tamura K, Tomita N, Yoshida T, Sugihara K, Nakamura Y, Miyano S, Imoto S, Furukawa Y, Ikenoue T. Application of targeted nanopore sequencing for the screening and determination of structural variants in patients with Lynch syndrome. *Journal of Human Genetics*, 2021.

伊藤ゆり

1. 加茂憲一, 福井敬祐, 坂本亘, 伊藤ゆり. がん対策立案・評価における意思決定に寄与するマイクロシミュレーションの構築 : 大腸がんを事例に. 計量生物学. 2021;41(2):93-115.
2. Tamura S, Suzuki K, Ito Y, Fukawa A. Factors related to the resilience and mental health of adult cancer patients: a systematic review. *Support Care Cancer*. 2021.
3. Katanoda K, Hori M, Saito E, Shibata A, Ito Y, Minami T, Ikeda S, Suzuki T, Matsuda T. Updated trends in cancer in Japan: incidence in 1985-2015 and mortality in 1958-2018 - a sign of decrease in cancer incidence. *J Epidemiol*. 2021.
4. 伊藤ゆり. がんのアウトカムにおける社会経

済指標による格差. 癌と化学療法. 2020;47(7):1007-11.

5. Ito Y, Miyashiro I, Ishikawa T, Akazawa K, Fukui K, Katai H, Nunobe S, Oda I, Isobe Y, Tsujitani S, Ono H, Tanabe S, Fukagawa T, Suzuki S, Kakeji Y, Sasako M, Bilchik A, Fujita M. Determinant factors on differences in survival for gastric cancer between the US and Japan using nationwide databases. *J Epidemiol.* 2021. 31(4):241-248
6. Aoe J, Ito Y, Fukui K, Nakayama M, Morishima T, Miyashiro I, Sobue T, Nakayama T. Long-term trends in sex difference in bladder cancer survival 1975-2009: A population-based study in Osaka, Japan. *Cancer medicine.* 2020. 9(19):7330-7340

#### 後藤 励

1. Masaki Okuda, Yukinobu Ichida, Keita Yamane, Rika Ohtsuka, Miwa Yamaguchi, Rei Goto, Atsuhiko Yamada, Atsushi Sannabe, Naoki Kondo, Takashi Oshio (2021) "Preferences for the forms of co-payment and advance payment in healthcare services; a discrete choice experiment" *Asian Pacific Journal of Health Economics and Policy* Vol.3 No.2 DOI10.6011/apj.2021.01
2. Emoto N, Soga A, Fukuda I, Tanimura-Inagaki K, Harada T, Koyano HM, Goto R, Sugihara H. Irrational Responses to Risk Preference Questionnaires by Patients with Diabetes with or without Retinopathy and Comparison with Those without Diabetes. *Diabetes Metab Syndr Obes.* 2020;13:4961-4971
3. Matsuoka Y, Goto R, Atsumi T, Morimura N, Nagao K, Tahara Y, Asai Y, Yokota H, Ariyoshi K, Yamamoto Y, Sakamoto T. (2020) "Cost-effectiveness of extracorporeal cardiopulmonary resuscitation for out-of-hospital cardiac arrest: A multi-centre prospective cohort study." *Resuscitation* 2020;157: 32-38. DOI: 10.1016/j.resuscitation.2020.10.009

#### (書籍)

伊藤 ゆり

1. Ito Y, Rachet B. Chapter 12. Cancer Inequalities in Japan. Brunner E, Cable N, Iso, H. Eds. *Health in Japan: Social Epidemiology of Japan since the 1964 Tokyo Olympics.* Oxford University Press; 2020. 179-199

#### R3 年度

(雑誌)

若尾文彦

1. 若尾文彦 がん診療連携拠点病院等と地域との連携について *癌と化学療法* 48(6):749-752.,2021
2. Toh Y, Inoue Y, Hayakawa, M, Yamaki C, Takeuchi, H, Ohira M, Matsubara H, Doki Y, Wakao F, Takayama T, Creation and provision of a question and answer resource for esophageal cancer based on medical professionals' reports of patients' and families' views and preferences. *Esophagus.* 18(4):872-879,2021 doi: 10.1007/s10388-021-00857-7.
3. Takayama T, Yamaki C, Hayakawa M, Higashi T, Toh Y, Wakao F. Development of a New Tool for Better Social Recognition of Cancer Information and Support Activities Under the National Cancer Control Policy in Japan. *J Public Health Manag Pract.* 01;27(2):E87-E99,2021 doi: 10.1097/PHH.0000000000001155.
4. Yamaki C, Takayama T, Hayakawa M, Wakao F. Users' evaluation of Japan's cancer information services: process, outcomes, satisfaction and independence. *BMJ Open Qual.* 2021 Dec;10(4):e001635. doi: 10.1136/bmjopen-2021-001635.
5. Ln J, Nakamura Y, Mikami H, Kusakabe M, Saruki N, Wakao F, Nagase H. Matters of data openness and KapWeb, a web tool of multi - cancer survival analysis for cancer survivors. *Cancer Sci.* 112(5):2060-2062,2021 doi: 10.1111/cas.14788.
6. 助友裕子、東 尚弘、若尾文彦 外部講師活用型がん教育の推進における教育委員会担当者の困り事 -がん対策担当部署との連携に向けたワークショップ参加者の記述-。日本健康教育学会誌 29(2):163-172、2021
7. 谷水正人、青儀健二郎、下井辰徳、加藤雅志、若尾文彦、中釜 斉。抗がん剤外来治療は採算性が確保されていない-全国がんセンター協議会加盟 32 病院の外来通院治療と入院治療の粗利額比較分析- 日本医療マネジメント学会雑誌 22 (4) 2022
8. 若尾文彦. がん医療に関する情報の信頼性。日本信頼性学会誌 44(2) : 86-91,2022
9. Sezai I, Taniguchi C, Yoshimi I, Hirano T, Wakao F. How Self-Efficacy toward, Perceived Importance of, and Beliefs about Smoking Cessation Support Impact-Related Behaviors in Japanese Nursing Professionals. *Int J Environ Res Public Health.* 2022 Feb 17;19(4):2304. doi:

10.3390/ijerph19042304.

10. Taniguchi C, Sezai I, Yoshimi I, Hirano T, Wakao F. Effectiveness of a smoking cessation educational program for Japanese nurses on subsequent changes of behavior in delivering smoking cessation counseling. *Tob Induc Dis*. 2022 Feb 18;20:19. doi: 10.18332/tid/144649.
11. 早川雅代、渡部乙女、下井辰徳、一家綱邦、高山智子、若尾文彦. 科学的根拠が不十分ながん免疫療法の情報収集から受療までの患者の気持ちと医師の悩みに関する質的調査. *日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌*.13(1);40-51:2022

東尚弘

1. Watanabe T, Sugiyama T, Imai K, Higashi T. How are new drugs disseminated in Japan? Analysis using the National Database of Health Insurance Claims of Japan. *Cancer Science*, 09 March 2022; DOI: 10.1111/cas.15322
2. Higashi T. Cancer epidemiology and treatment patterns for older persons in Japan: A review of nationwide data and statistics. *Japan. Jpn J Clin Oncol*. 2022 Apr 6;52(4):303-312. doi: 10.1093/jjco/hyac011.
3. Kurogi A, Onozuka D, Hagihara A, Nishimura K, Kada A, Hasegawa M, Higashi T, Kitazono T, Ohta T, Sakai N, Arai H, Miyamoto S, Sakamoto T, Iihara K, the J-ASPECT Study Collaborators. Influence of hospital capabilities and prehospital time on outcomes of thrombectomy for stroke in Japan from 2013 to 2016. *Scientific Reports* 12, Article number: 3252 (2022), 28 February 2022; <https://doi.org/10.1038/s41598-022-06074-1>
4. Ishii T, Nakano E, Watanabe T, Higashi T. Cardiac function checkup during trastuzumab therapy among patients with breast cancer. *Clinical Breast Cancer*, 19 January 2022; <https://doi.org/10.1016/j.clbc.2022.01.005>
5. 佐藤三依、渡邊ともね、市瀬雄一、松木明、脇田貴文、東尚弘 : 患者診療体験調査における質問表現の回答への影響に関する比較調査 厚生指標 2021年12月号(第68巻第15号)p.9-16
6. Watanabe T, Ichinose Y, Matsuki M, Wakita T, Toida T, Masuda M, Higashi T. Experiences of patients with cancer at health care facilities in Japan: Results from a nationwide survey. *BMC Health Services Research*, 21, 2021 Oct. 1180(2021),

<https://doi.org/10.1186/s12913-021-07184-8>

7. Watanabe T, Goto R, Yamamoto Y, Ichinose Y, Higashi T. First-Year Healthcare Resource Utilization Costs of Five Major Cancers in Japan. *Int. J. Environ. Res. Public Health* 2021 Sep. 18(18), 9447; <https://doi.org/10.3390/ijerph18189447>
8. Noda-Narita S, Kawachi A, Okuyama A, Sadachi R, Hirakawa A, Goto Y, Fujiwara Y, Higashi T, Yonemori K. First-line treatment for lung cancer among Japanese older patients: A real-world analysis of hospital-based cancer registry data. *PLoS One*. 2021 Sep 20;16(9): e0257489. doi: 10.1371/journal.pone.0257489. PMID: 34543332; PMCID: PMC8452055.
9. Motoyama S, Maeda E, Iijima K, Anbai A, Sato Y, Wakita A, Nagaki Y, Fujita H, Minamiya Y, Higashi T. Differences in treatment and survival between elderly with thoracic esophageal cancer in metropolitan areas and other. *Cancer Science*. 2021 Oct; 112(10): 4281–4291. Published online 2021 Jul 31. doi: 10.1111/cas.15070
10. 力武 諒子, 安藤 瑞生, 吉田 昌史, 吉本 世一, 山嵜 達也, 東尚弘 : 頭頸部がん専門医制度が定める指定研修施設における治療の現況, *頭頸部外科*.2021年7月 ; 31 ( 1 ) : 45 ~ 50 , <https://doi.org/10.5106/jjshns.31.45>
11. Okuyama A, Tsukada Y, Higashi T. Coverage of the Hospital-Based Cancer Registries and the Designated Cancer Care Hospitals in Japan. *Jpn J Clin Oncol* y, Volume 51, Issue 6, June 2021, Pages 992–998, <https://doi.org/10.1093/jjco/hyab036>
12. 助友裕子、東尚弘、若尾文彦 外部講師活用型がん教育の推進における教育委員会担当者の困り事:がん対策担当部署との連携に向けたワークショップ参加者の記述 *日本健康教育学会誌* 2021年5月. 29巻2号 p. 163-172 , <https://doi.org/10.11260/kenkokyoiku.29.163>
13. 東尚弘 わが国のがん登録制度と臨床での活用可能性 *腫瘍内科* (1881-6568)27巻4号 Page445-449(2021.04)

谷水正人

- 1) 青儀健二郎、谷水正人. 四国がんセンターにおける経営学的観点からみたがん化学療法施行上の問題点. *日本医療マネジメント学会雑誌*. 第22巻第1号. 29-33. 2021
- 2) 谷水正人、青儀健二郎、下井辰徳、加藤雅



志、若尾文彦、中釜 齊. 抗がん剤外来治療は採算性が確保されていない —全国がんセンター協議会加盟 32 病院の外来通院治療と入院治療の粗利額比較分析—. 日本医療マネジメント学会雑誌. 第 22 巻第 4 号. 183-188. 2022

松本公一

1. Matsumoto K, Yamamoto K, Ozono S, Hashimoto H, Horibe K. Differences in approach of cancer specialists toward AYA cancer care. *Pediatric International* 2022 in press <https://doi.org/10.1111/ped.15119>
2. Ono M, Matsumoto K, Boku N, Fujii N, Tsuchida Y, Furui T, Harada M, Kanda Y, Kawai A, Miyachi M, Murashima A, Nakayama R, Nishiyama H, Shimizu C, Sugiyama K, Takai Y, Fujio K, Morishige KI, Osuga Y, Suzuki N. Indications for fertility preservation not included in the 2017 Japan Society of Clinical Oncology Guideline for Fertility Preservation in Pediatric, Adolescent, and Young Adult Patients treated with gonadal toxicity, including benign diseases. *Int J Clin Oncol*. 2021 Nov 17. doi: 10.1007/s10147-021-02082-9. Epub ahead of print. PMID:34791542.
3. Hara J, Kosaka Y, Koh K, Matsumoto K, Kumamoto T, Fujisaki H, Ishida Y, Suzuki R, Mochizuki S, Goto H, Yuza Y, Koga Y. Phase III study of palonosetron for prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting in pediatric patients. *Jpn J Clin Oncol*. 2021 Aug 1;51(8):1204-1211. doi: 10.1093/jjco/hyab079.
4. Yotani N, Shinjo D, Kato M, Matsumoto K, Fushimi K, Kizawa Y. Current status of intensive end-of-life care in children with hematologic malignancy: a population-based study. *BMC Palliat Care*. 2021 Jun 7;20(1):82. doi:10.1186/s12904-021-00776-5.

5. 松本 公一 【移行期医療について考える】移行期医療の現状と課題について 小児血液・腫瘍疾患 小児科臨床(0021-518X)74 巻 6 号 Page664-668(2021.06)
6. 松本 公一 【希少がん-がん診療の新たな課題-】希少がん総論 希少がん小児医療 日本臨床(0047-1852)79 巻増刊 1 希少がん Page124-130(2021.03)

吉田輝彦

1. Ueki A, Sugano K, Misu K, Aimonio E, Nakamura K, Tanishima S, Tanaka N, Mikami S, Hirasawa A, Ando M, Yoshida T, Oya M, Nishihara H, Kosaki K. Germline whole-gene deletion of *FH* diagnosed from tumor profiling. *International Journal of Mol. Sci*. 2021 Jul 26; 22(15):7962. doi:10.3390/jims22157962. PMID: 34360727.
2. Nakagawa M, Kobayashi E, Yamada M, Watanabe T, Hirata M, Tanabe N, Ushiyama M, Sakamoto H, Sato C, Mori T, Yoshida A, Yoshida T, Sugano K and Kawai A. Myxofibrosarcoma harboring an MLH1 pathogenic germline variant associated with Muir-Torre syndrome: a case report. *Hered Cancer Clin Pract*, 2021 Aug 21;19(1):34. doi:10.1186/213053-021-00192-z. PMID: 34419117.
3. Nakano Y, Satomi K, Okada K, Gotoh M, Ushiyama M, Sakamoto H, Yoshida T, Kunihiro N, Hira K, Fukushima H, Inoue K, Hirato J, Ichimura K, Hara J. Malignant brain tumor in an infant showing histopathological features of yolk sac tumor but genetic and epigenetic features of AT/RT. *Pediatr Blood Cancer*. 2021 Sep;68(9): e29192. Doi:10.1002/pbc.29192. Epub 2021 Jun 29. PMID: 34185381.
4. Ishizu K, Hashimoto T, Naka T, Yatabe Y, Kojima M, Kuwata T, Nonaka S, Oda I, Esaki M, Kudo M, Gotohda N, Yoshida T, Yoshikawa T, Sekine S. APC mutations are common in adenomas but infrequent in adenocarcinomas of the non-ampullary duodenum. *J Gastroenterol*. 2021 Nov; 56 (11): 988-

998. doi: 10.1007/s00535-021-01823-x. Epub 2021 Sep 12. PMID: 34514550.
5. Yamaguchi K, Kasajima R, Takane K, Hatakeyama S, Shimizu E, Yamaguchi R, Katayama K, Arai M, Ishioka C, Iwama T, Kaneko S, Matsubara N, Moriya Y, Nomizu T, Sugano K, Tamura K, Tomita N, Yoshida T, Sugihara K, Nakamura Y, Miyano S, Imoto S, Furukawa Y, Ikenoue T. Application of targeted nanopore sequencing for the screening and determination of structural variants in patients with Lynch syndrome. *Journal of Human Genetics*, 2021 Nov; 66(11): 1053-1060. doi: 10.1038/s10038-021-00927-9. Epub 2021 May 6.
  6. Shimamoto Y, Ishiguro S, Takeuchi Y, Nakatsuka S, Yunokizaki H, Ezoe Y, Nakajima T, Matsuno K, Nakahira H, Tanaka K, Ishihara R, Takayama T, Yoshida T, Ishikawa H. Gastric neoplasms in patients with familial adenomatous polyposis: endoscopic and clinicopathological features. *Gastrointestinal Endoscopy*, 2021 Dec; 94(6): 1030-1042. E2. doi: 10.1016/j.gie.2021.06.010. Epub 2021 Jun 17. PMID: 34146551.
  7. Yasuto Yagi, Naoko Abeto, Junichi Shiraishi, Chieko Miyata, Satomi Inoue, Haruka Murakami, Moeko Nakashima, Kokichi Sugano, Mineko Ushiyama, Teruhiko Yoshida and Kazuki Yamazawa. A novel pathogenic variant of the FH gene in a family with hereditary leiomyomatosis and renal cell carcinoma. *Human Genome Variation*. 2022 Jan 17;9(1): 3. doi: 10.1038/s41439-021-00180-8. Published online: 17 January 2022. PMID: 35034951.
  8. Suzuki K, Igata H, Abe M, Yamamoto Y, small RNA based cancer classification project (including Yoshida T). Multiple cancer type classification by small RNA expression profiles with plasma samples from multiple facilities. *Cancer Sci*. 2022 Feb 26. Doi: 10.1111/cas.15309. Online ahead of print. PMID: 35218669.
- Yuichi Ichinose, Takahiro Higashi (2021) "First-year healthcare costs of five major cancers in Japan" *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2021, 18, 9447. DOI: <https://doi.org/10.3390/ijerph18189447>
2. Utsumi T, Horimatsu T, Nishikawa Y, Hoshino N, Takahashi Y, Goto R, Kashihara S, Fukuyoshi J, Nakayama T, Seno H. (2021) "Medical costs according to the stages of colorectal cancer: an analysis of health insurance claims in Hachioji, Japan." *Journal of Gastroenterology* 2021; 1-11. <https://doi.org/10.1007/s00535-021-01798-9>

伊藤ゆり

1. Iwagami M, Kumazawa R, Miyamoto Y, Ito Y, Ishimaru M, Morita K, Hamada S, Tamiya N, Yasunaga H: Risk of Cancer in Association with Ranitidine and Nizatidine vs Other H2 Blockers: Analysis of the Japan Medical Data Center Claims Database 2005-2018. *Drug Saf* 2021, 44(3):361-371.
2. Kamo KI, Fukui K, Ito Y, Nakayama T, Katanoda K: How much can screening reduce colorectal cancer mortality in Japan? Scenario-based estimation by microsimulation. *Jpn J Clin Oncol* 2022, 52(3):221-226.
3. Katanoda K, Ito Y, Sobue T: International comparison of trends in cancer mortality: Japan has fallen behind in screening-related cancers. *Jpn J Clin Oncol* 2021, 51(11):1680-1686.
4. Kataoka A, Fukui K, Sato T, Kikuchi H, Inoue S, Kondo N, Nakaya T, Ito Y: Geographical socioeconomic inequalities in healthy life expectancy in Japan, 2010-2014: An ecological study. *Lancet Reg Health West Pac* 2021, 14:100204.
5. Yagi A, Ueda Y, Ikeda S, Miyoshi A, Nakagawa S, Hiramatsu K, Kobayashi E, Kimura T, Ito Y, Nakayama T, Nakata K, Morishima T, Miyashiro I, Kimura T: Improved long-term survival of corpus cancer in Japan: A 40-year population-based analysis. *Int J Cancer* 2022, 150(2):232-242.
6. 榊原敦子, 中山健夫, 伊藤ゆり: HPV ワクチンと子宮頸がん HPV1 次検診 日本と世界の子宮頸がんの現状. *医学のあゆみ* 2022, 280(7):745-753.
7. 福井敬祐, 伊藤ゆり, 片野田耕太: 都道府県別

後藤励

1. Tomone Watanabe, Rei Goto, Yoko Yamamoto,

にみるがん年齢調整死亡率の推移予測ツールの開発. 厚生 の 指 標 2022.[印刷中]

8. 片岡葵, 太田将仁, 谷口高平, 小村和正, 福井敬祐, 伊藤ゆり: 単施設における院内がん登録と生体資料をレコードリンクージュした臨床・疫学研究に関するシステマティックレビュー. 癌と化学療法誌 2021, 48(12). 1469-1474
9. 太田将仁, 伊藤ゆり, 松本吉史, 東尚弘. がん診療連携拠点病院現況報告における院内がん登録の活用に関する検討: 治療件数と情報公開. JACR モノグラフ 2021.27 ; 20-5.

(書籍)

伊藤 ゆり

1. 伊藤ゆり. 保健学講座 4. 疫学/保健統計. メヂカルフレンド社. 2022年. 137-148. 183-194. 第11章 政策のための分析. 第14章 スクリーニング・検診.

R4 年度

(雑誌)

若尾文彦

1. 齋藤義正, 高橋宏和, 若尾文彦. がん対策推進基本計画に基づいたがん化学療法チーム研修の役割. 日本公衆衛生雑誌 2022 Apr 8. doi: 10.11236/jph.21-128.
2. 力武諒子, 渡邊ともね, 山元遥子, 市瀬雄一, 新野真理子, 松木明, 太田将仁, 坂根純奈, 伊藤ゆり, 東尚弘, 若尾文彦. がん診療連携拠点病院等の指定要件に関する調査. 厚生 の 指 標 69(6) 15-21, 2022
3. 力武 諒子, 渡邊 ともね, 山元 遥子, 市瀬 雄一, 新野 真理子, 松木 明, 太田 将仁, 坂根 純奈, 伊藤 ゆり, 東 尚弘, 若尾 文彦: がん診療連携拠点病院等の指定要件関連の詳細に関する実態 病院 81 巻 5 号 (2022 年 5 月) Page436-441

東尚弘

1. Watanabe T, Rikitake R, Kakuwa T, Ichinose Y, Nino M, Mizushima Y, Ota M, Fujishita M, Tsukada Y, Higashi T. Time to treatment initiation for six cancer types: An analysis of data from a nationwide registry in Japan. World Journal of Surgery 2023 Apr;47(4):877-886. doi: 10.1007/s00268-022-06883-5. Epub 2023 Jan 6.
2. Ichinose Y, Yang Yi-Hsin, Tsai Hui-Jen, Huang Ru-Yu, Higashi T, Nishida T, Chen Li-Tzong. Imatinib use for gastrointestinal stromal tumors among older patients in Japan and Taiwan. Sci Rep. 2022 Dec

28;12(1):22492. doi: 10.1038/s41598-022-27092.

3. Yamamoto S, Sakakibara N, Hirano H, Morizane C, Honma Y, Hijioka S, Okusaka T, Higashi T, Kawai A. The real-world selection of first-line systemic therapy regimen for metastatic gastroenteropancreatic neuroendocrine neoplasm in Japan. Scientific Reports 2022 12, Article number: 17601.
4. Ishii T, Watanabe T, Higashi T. Differences in the performance of adjuvant chemotherapy between hemodialysis and non-hemodialysis patients. Cancer Medicine. 2023 Feb;12(4):4033-4041. doi: 10.1002/cam4.5258. Epub 2022 Sep 21.
5. Satake T, Morizane C, Rikitake R, Higashi T, Okusaka T, Kawai A. The epidemiology of rare types of hepatobiliary and pancreatic cancer from national cancer registry. J Gastroenterol. 2022. 57(11) :890-901. doi: 10.1007/s00535-022-01920-5. Epub 2022 Sep 26.
6. Ren N, Nishimura K, Higashi T, Iihara K. Associations Between Adherence to Evidence-Based, Stroke Quality Indicators and Outcomes of Acute Reperfusion Therapy. Stroke 2022 Nov;53(11):3359-3368.
7. Okuyama A, Watabe M, Makoshi R, Takahashi H, Tsukada Y, Higashi T. Impact of the COVID-19 pandemic on the diagnosis of cancer in Japan: analysis of hospital-based cancer registries. Jpn J Clin Oncol. 2022 Oct 6;52(10):1215-1224. doi: 10.1093/jjco/hyac129.
8. Ishii T, Watanabe T, Higashi T. Baseline cardiac function checkup in patients with gastric or breast cancer receiving trastuzumab or anthracyclines. Cancer Med. 2023 Jan;12(1):122-130. doi: 10.1002/cam4.4929. Epub 2022 Jun 11.
9. Kanehara R, Goto A, Watanabe T, Inoue K, Taguri M, Kobayashi S, Imai K, Saito E, Katanoda K, Iwasaki M, Ohashi K, Noda M, Higashi T. Association between diabetes and adjuvant chemotherapy implementation in patients with stage III colorectal cancer. J Diabetes Investig. 2022 Oct;13(10):1771-1778. doi: 10.1111/jdi.13837. Epub 2022 Jun 4.
10. Higashi, T. Cancer epidemiology and treatment patterns for older persons in Japan: A review of nationwide data and statistics. Jpn J Clin Oncol. 2022 Apr 6;52(4):303-312. doi: 10.1093/jjco/hyac011.
11. 力武諒子, 渡邊ともね, 山元遥子, 市瀬雄一, 新野真理子, 松木明, 太田将仁, 坂根純奈, 伊藤ゆり, 東尚弘, 若尾文彦: がん診療連携

12. 力武 諒子、渡邊 ともね、山元 遥子、市瀬 雄一、新野 真理子、松木 明、太田 将仁、坂根 純奈、伊藤 ゆり、東 尚弘、若尾 文彦：がん診療連携拠点病院等の指定要件関連の詳細に関する実態 病院 81巻5号(2022年5月) Page436-441
13. 東 尚弘 医療の質を評価して改善することの社会的意義 medicina 59巻11号 Page1818-1821 (2022.10)
14. 東 尚弘、中山 富雄 がん検診の質の考え方 medicina 59巻11号 Page1966-1969 (2022.10)

松本公一

1. Matsumoto K, Yamamoto K, Ozono S, Hashimoto H, Horibe K. Differences in the approaches of cancer specialists toward adolescent and young adult cancer care. *Pediatr Int*. 2021. Dec 30;64(1) .e15119
2. 大園 秀一, 石田 也寸志, 前田 美穂, 大植 孝治, 上別府 圭子, 清谷 知賀子, 竹之内 直子, 長 祐子, 湯坐 有希, 家原 知子, 宮村 能子, 檜山 英三, 松本 公一, 大賀 正一, 日本小児血液・がん学会長期フォローアップ・移行期医療委員会. 小児期発症血液・腫瘍性疾患の成人への移行期支援に関する基本的姿勢. 日本小児血液・がん学会雑誌(2187-011X). 59巻1号. Page58-65. 2022.05
3. 佐藤 聡美, 瀧本 哲也, 小阪 嘉之, 佐藤 篤, 湯坐 有希, 康 勝好, 角南 勝介, 種山 雄一, 堀 壽成, 太田 節雄, 松本 公一, 多賀 崇, 渡辺 新, 滝田 順子, 野村 恵子, 金兼 弘和, 陳基明, 早川 晶, 福島 敬, 加藤 実穂, 大六一志. 小児急性リンパ性白血病患児における認知機能の前方視的多施設協同研究. 日本小児血液・がん学会雑誌(2187-011X). 58巻5号. Page424-431. 2022.02
4. 渡邊 奈美, 佐藤 聡美, 加藤 実穂, 浦山 ケビン, 清谷 知賀子, 松本 公一. 小児がんにおける日本版認知機能尺度(CCSS-NCQ)の開発. 日本小児血液・がん学会雑誌(2187-011X). 58巻5号. Page419-423. 2022.02

後藤励

1. Takashi Morimoto, Kaori Fujito, Bunpei Yamasaki, & Rei Goto (2023). Cost-effectiveness Analysis of Monoclonal Antibodies in the First-line Treatment of RAS Wild-type Metastatic Colorectal Cancer: A Systematic Review. *Clinical Therapeutics*. S0149-2918(22)00404-0 <https://doi.org/https://doi.org/10.1016/j.clint>

伊藤ゆり

1. Sakakibara A, Nakayama T, Uchida H, Odagiri Y, Ito Y, Katayama T, Ueda Y, Higuchi T, Terakawa K, Matsui K, Miyazaki K, Konishi I: Trends and future projections of cervical cancer-related outcomes in Japan: What happens if the HPV vaccine program is not implemented? *Int J Cancer* 2023. 152(9):1863-1874. doi:10.1002/ijc.34391
2. Hanafusa M, Ito Y, Ishibashi H, Nakaya T, Nawa N, Sobue T, Okubo K, Fujiwara T: Association between Socioeconomic Status and Net Survival after Primary Lung Cancer Surgery: A Tertiary University Hospital Retrospective Observational Study in Japan. *JJCO* 2023 30;53(4):287-296
3. Ota M, Asakuma M, Taniguchi K, Ito Y, Komura K, Tanaka T, Yamakawa K, Ogura T, Nishioka D, Hirokawa F, Uchiyama K, Lee SW: Short-Term Outcomes of Laparoscopic and Open Distal Pancreatectomy Using Propensity-Score Analysis: A Real-World Retrospective Cohort Study. *Annals of surgery* 2022. (in press). doi:10.1097/sla.0000000000005758
4. Kaneko N, Nishino Y, Ito Y, Nakaya T, Kanemura S: Association of Socioeconomic Status Assessed by Areal Deprivation with Cancer Incidence and Detection by Screening in Miyagi, Japan between 2005 and 2010. *J Epidemiol* 2022 (in press). doi:10.2188/jea.JE20220066
5. Taniyama Y, Oze I, Koyanagi YN, Kawakatsu Y, Ito Y, Matsuda T, Matsuo K, Mitsudomi T, Ito H: Changes in survival of patients with non-small cell lung cancer in Japan: an interrupted time series study. *Cancer Science* 2023. 114(3):1154-1164. doi: <https://doi.org/10.1111/cas.15646>
6. Amano K, Suzuki K, Ito Y: Changes in quality of life and lower urinary tract symptoms over time in cancer patients after a total prostatectomy: systematic review and meta-analysis. *Supportive Care in Cancer* 2022, 30(4):2959-2970. doi: 10.1007/s00520-021-06595-x
7. 片岡葵, 井上勇太, 西岡大輔, 佐藤倫治, 福井敬祐, 伊藤ゆり, 近藤尚己: 都道府県別の社会経済状況を測る合成指標の開発: 健康寿命の都道府県間格差対策に向けて. 厚生指標 2023. (印刷中)
8. 片野田 耕太, 伊藤 秀美, 伊藤 ゆり, 片山 佳代子, 西野 善一, 筒井 杏奈, 十川 佳代, 田中 宏和, 大野 ゆう子, 中谷友樹: 諸外国でのがん登録データの地理情報の利用事例とわが

力武涼子、市瀬雄一

1. 力武涼子、渡邊ともね、山元遥子、市瀬雄一、新野真理子、松木明、太田将仁、坂根純奈、伊藤ゆり、東尚弘、若尾文彦：がん診療連携拠点病院等の指定要件に関する調査 厚生 の指標 2022年6月号(第69巻第6号) Page15-21
  2. 力武涼子、渡邊ともね、山元遥子、市瀬雄一、新野真理子、松木明、太田将仁、坂根純奈、伊藤ゆり、東尚弘、若尾文彦：がん診療連携拠点病院等の指定要件関連の詳細に関する実態 病院 81巻5号(2022年5月) Page436-441
2. 学会発表
- R2年度
1. 若尾文彦 なぜ今、がん教育? ~がん教育の重要性と現状の課題~ 第61回 日本肺癌学会学術集会。岡山市、2020
  2. 若尾文彦 わが国のがん対策の現状と今後~消化器がんを中心に~ 日本消化器病学会 関東支部第37回教育講演会 東京 2020
  3. Establishment of a Study Cohort for Long-Term Follow-Up of Childhood Cancer Survivors: NCCHD Lifetime Cohort Study. C. Kiyotani, S. Kobayashi, M. Hangai, Y. Shioda, T. Osumi, K. Terashima, D. Tomizawa, S. Sato, T. Takimoto, M. Kato, K. Urayama, K. Matsumoto. 52nd Congress of the International Society of Pediatric Oncology 2020.10.14-17, poster.
  4. End-of-Life Care in Children, Adolescent and Young Adults (AYA) With Cancer: A Study using an Administrative Database. S. Bun, S. Kunisawa, N. Sasaki, K. Fushimi, K. Matsumoto, A. Yamatani, Y. Imanaka. 52nd Congress of the International Society of Pediatric Oncology 2020.10.14-17, poster.
  5. Change of Pediatric Cancer Treatment System in Japan using the Quality Indicators (QI) for Evaluating Core Hospitals. K. Matsumoto, H. Fujisaki, H. Komatsu, K. Hirai, A. Yoneda, T. Takimoto. 52nd Congress of the International Society of Pediatric Oncology 2020.10.14-17, poster.
  6. 小児脳腫瘍診療の集約化の実態 松本公一、寺島慶太、高橋聡子、瀧本哲也 第123回日本小児科学会学術集会, 2020.8.21-23, 口演
  7. 伊藤ゆり. 2021. "既存統計資料を用いた健康

8. Ito, Y, Fukui, K. Katanoda, K. Higashi, T. 2020. 'Geographical disparities in the reduction of cancer mortality and the early detection of cancer by prefecture in Japan.', *The 79th Annual Meeting of Japanese Cancer Association 2020*. OE24-1 Epidemiological study, descriptive and cohort studies [Oral]. Hiroshima, Japan 1-3 Oct. 2020.
  9. 太田将仁, 伊藤ゆり, 東尚弘. 2021. "2018年度がん診療連携拠点病院の現況報告からみたストラクチャ指標とプロセス指標の評価." 第31回日本疫学会学術総会, [Oral].
  10. 片岡葵, 福井敬祐, 佐藤倫治, 菊池宏幸, 井上茂, 近藤尚己, 中谷友樹, and 伊藤ゆり. 2021. "都道府県内の健康寿命・平均寿命の社会経済格差と都道府県全体の健康指標における関連性の検討." 第31回日本疫学会学術総会, [Oral].
  11. クチャ指標とプロセス指標の評価." 第31回日本疫学会学術総会, [Oral].
  12. 片岡葵, 福井敬祐, 佐藤倫治, 菊池宏幸, 井上茂, 近藤尚己, 中谷友樹, and 伊藤ゆり. 2021. "都道府県内の健康寿命・平均寿命の社会経済格差と都道府県全体の健康指標における関連性の検討." 第31回日本疫学会学術総会, [Oral].
- R3年度
1. Pulmonary Sequelae After Reduced Intensity Conditioning Regimen With Low-dose Total Body Irradiation. Hiroshi Fuji; Hirotohi Sakaguchi; Daisuke Tomizawa; Kimikazu Matsumoto; Motohiro Kato, Japan 53RD CONGRESS OF THE INTERNATIONAL SOCIETY OF PAEDIATRIC ONCOLOGY VIRTUAL CONGRESS OCTOBER 21-24 2021
  2. Factors Associated with Successful School Reentry of Childhood Cancer Survivors in Japan S. Goto, H. Shiwaku, K. Matsumoto 3RD CONGRESS OF THE INTERNATIONAL SOCIETY OF PAEDIATRIC ONCOLOGY VIRTUAL CONGRESS OCTOBER 21-24 2021
  3. 小児がん連携病院 QI 構造指標の解析からみた小児がん医療の実態. 松本公一、藤崎弘之、小松裕美、米田光宏、平位健治、加藤実穂、瀧本哲也. 第63回日本小児血液・がん学会学術集

- 会 2021.11.25-27
4. 小児がん患者の復学を成功に導いた要因の検討  
後藤 清香, 塩飽 仁, 松本 公一 第19回日本小児がん看護学会 2021.11.25-27
  5. 吉田 輝彦, 菅野 康吉, 平田 真, 田辺 紀子, 渡辺 智子, 坂本 裕美, 後藤 政広, 牛尼 美年子, 小高 陽子, 白石 航也, 白石 友一. 「全ゲノム解析等実行計画」概観と遺伝性腫瘍の取り組み. 第27回日本遺伝性腫瘍学会学術集会. 口演 (シンポジウム), 2021/6/19&オンデマンド配信期間1回目 2021/6/20~2021/6/27, 2回目 2021/6/29~2021/7/15 (WEB開催) S6-1.
  6. 藤本 祐美, 箱崎 優美, 小林 進, 牛尼 美年子, 平岡 弓枝, 原野 謙一, 古川 孝弘, 藤井 誠志, 桑田 健, 吉田 輝彦, 大橋 紹宏, 向原 徹. BRCA2 遺伝子の non-coding 領域変異が原因と考えられた HBOC の一家系の報告. 第27回日本遺伝性腫瘍学会学術集会. 口演, オンデマンド配信期間1回目 2021/6/20~2021/6/27, 2回目 2021/6/29~2021/7/15 (WEB開催) 04-1.
  7. 勝部 暢介, 佐治 重衡, 岡野 舞子, 石野 敦, 高橋 昌一, 野水 整, 菅野 康吉, 吉田 輝彦. 家族性血管肉腫の1家系. 第27回日本遺伝性腫瘍学会学術集会. 口演, オンデマンド配信期間1回目 2021/6/20~2021/6/27, 2回目 2021/6/29~2021/7/15 (WEB開催) 05-7.
  8. 山田 真善, 田辺 紀子, 牛尼 美年子, 平田 誠, 後藤 政広, 中川 亮, 小林 栄介, 吉田 朗彦, 斎藤 豊, 吉田 輝彦, 菅野 康吉. 粘液線維肉腫と皮脂腺系腫瘍を短期間に発症した Muir-Torre 亜型のリンチ症候群の1例. 第27回日本遺伝性腫瘍学会学術集会. 示説, オンデマンド配信期間1回目 2021/6/20~2021/6/27, 2回目 2021/6/29~2021/7/15 (WEB開催) P1-10.
  9. 平岡 弓枝, 東樹 京子, 吉岡 貴裕, 向原 徹, 吉田 輝彦, 桑田 健. がんゲノム医療における多職種での遺伝性腫瘍の二次的所見対応について. 第27回日本遺伝性腫瘍学会学術集会. 示説, オンデマンド配信期間1回目 2021/6/20~2021/6/27, 2回目 2021/6/29~2021/7/15 (WEB開催) P4-13.
  10. 関根 悠哉, 平田 真, 松田 浩一, 菅野 康吉, 吉田 輝彦, 村上 善則, 福井 智洋, 赤松 秀輔, 小川 修, 中川 英刀, 沼倉 一幸, 成田 伸太郎, 羽瀧 友則, 桃沢 幸秀. 腎細胞がんの組織型によって寄与する遺伝子が異なることを示した大規模ゲノム解析. 第80回日本癌学会学術総会. 口演. 2021/9/30 パシフィコ横浜 J7-2-1.
  11. 津田 昇, 新井 恵吏, 藏本 純子, 田 迎, 牧内 里美, 尾島 英知, 高橋 順子, 平岡 伸介, 吉田 輝彦, 金井 弥栄. 非アルコール性脂肪性肝炎由来肝細胞がんの組織学的多様性に関わる エピゲノム異常. 示説. 第80回日本癌学会学術総会. 2021/9/30 パシフィコ横浜 P9-1-7.
  12. 藤本 真央, 新井 恵吏, 西山 直隆, 前島 亜希子, 藤元 博行, 北村 寛, 久野 敦, 吉田 輝彦, 金井 弥栄. レクチン染色による尿路上皮がんにおける糖鎖発現異常の検討. 第80回日本癌学会学術総会. 示説. 2021/9/30 パシフィコ横浜 P11-1-1.
  13. 北爪 賀子, 新井 恵吏, 松田 厚志, 角田 修一, 尾原 健太郎, 前島 亜希子, 久野 敦, 吉田 輝彦, 金井 弥栄. 腎臓がん過程におけるタンパク質の糖鎖修飾変化. 第80回日本癌学会学術総会. 口演. 2021/10/2 パシフィコ横浜 J11-4-2.
  14. 菅野 康吉, 白石 友一, 平田 真, 吉田 輝彦. 癌の遺伝的易罹患性-遺伝カウンセリング外来で行われる遺伝的形質の探究. 口演 (シンポジウム). 第80回日本癌学会学術総会. 2021/10/2 パシフィコ横浜 SST6-1.
  15. 小松 将之, 市川 仁, 千脇 史子, 坂本 裕美, 小松崎 理恵, 吉田 輝彦, 竹下文隆, 佐々木 博己. 転移性胃がんにおける腫瘍抑制シグナル ARHGAP-RhoA の失活は参謀接着が惹起するアポトーシスの回避に必須である. 第80回日本癌学会学術総会. 示説. 2021/10/2 パシフィコ横浜 P4-4-3.
  16. 千脇 史子, 小松 将之, 坂本 裕美, 高橋 真美, 小松崎 理恵, 松下 弘道, 朴 成和, 平岡 伸介, 竹下文隆, 市川 仁, 吉田 輝彦, 松崎 圭祐, 佐々木 博己. 170人の患者の腹水からの239株の腹膜転移性癌細胞株の樹立とその特徴. 第80回日本癌学会学術総会. 示説. 2021/10/2 パシフィコ横浜 P11-12-4.
  17. 吉田 輝彦. 我が国のがんゲノム医療概観: 遺伝性腫瘍を中心に. 日本人類遺伝学会第66回大会, 第28回日本遺伝子診療学会大会合同開催(ハイブリッド開催). 口演 (スイーツセミナー1). 2021/10/14 パシフィコ横浜, オンデマンド配信 2021/10/14~11/30, ライブ録画配信 2021/10/28~11/30, SS1-1.
  18. 吉岡 貴裕, 塚田 祐一郎, 伊藤 雅昭, 坂東 英明, 吉野 孝之, 木村 香里, 平岡 弓枝, 菅野 康吉, 吉田 輝彦, 桑田 健. 国立がん研究センター東病院における cStageII/III 大腸癌 1221例におけるリンチ症候群のユニバーサルスクリーニング結果. 日本人類遺伝学会第66回大会, 第28回日本遺伝子診療学会大会合同開催(ハイブリッド開催). 口演 2021/10/15 パシフィコ横浜, オンデマンド配信 2021/10/14~11/30, ライブ

録画配信 2021/10/28~11/30, B0-2.

19. 椎野 翔、田辺 記子、垣本 看子、渡辺 智子、渡瀬 智佳史、村田 健、神保 健二郎、吉田 輝彦、松下 弘道、首藤 昭彦、高山 伸. 当院における遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)診療外来の現状と今後の課題. 日本人類遺伝学会第66回大会、第28回日本遺伝子診療学会大会合同開催(ハイブリッド開催). 口演 2021/10/15 パシフィコ横浜、オンデマンド配信 2021/10/14~11/30, ライブ録画配信 2021/10/28~11/30, 05-5.
20. 山澤 一樹、矢木 康人、猜都 尚子、白石 淳一、宮田 知恵子、井上 沙聡、村上 遙香、中嶋 萌子、菅野 康吉、牛尼 美年子、吉田 輝彦. FH 遺伝子に新規の病的バリエーションを同定した遺伝性平滑筋腫症-腎細胞がん症候群の1家系 日本人類遺伝学会第66回大会、第28回日本遺伝子診療学会大会合同開催(ハイブリッド開催). 示説. 2021/10/15 パシフィコ横浜、オンデマンド配信 2021/10/14~11/30, ライブ録画配信 2021/10/28~11/30, P25-7.
21. 伊藤 ゆり, 住民ベースのがん登録資料を活用した記述疫学研究. In: 第32回日本疫学会学術総会: 2022.1 2022; オンライン; 2022: A-01 奨励賞受賞者講演
22. 伊藤 ゆり, 堀 芽久美, 福井 敬祐, 太田 将仁, 中田 佳世, 杉山 裕美, 伊藤 秀美, 大木 いずみ, 西野 善一, 宮代 勲, 片野田 耕太, 柴田 亜希子, 智大 松: 20年間でがん患者の生存率は向上したか?6府県の住民ベースのがん登録による検討. In: 第32回日本疫学会学術総会: 2022; オンライン; 2022: 0-05 優秀演題賞候補セッション[口演].
23. 伊藤ゆり: 国内外におけるマイクロシミュレーションモデルを活用したがん対策. In: JACP がん予防学術大会 2021 プログラム・抄録集: 2021; 2021: 31.
24. 伊藤ゆり: 10年生存率から見えてくること. In: 全国がん患者団体連合会・がん患者学会 2021: 2021.08.21 2021; JACR 後援セッション; 2021. Online [招待講演]
25. 伊藤ゆり: がん登録とは?. In: 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会 PAP 基礎講座 11 がん登録: 2022.02.18 2022; 京都; 2022: [招待講演].
26. Ito Y, Fukui K, Kondo N, Katanoda K, Nakaya T, Sobue T: Trends in area-level socioeconomic inequalities of lung cancer mortality by age group in Japan: 1995-2014 In: International Epidemiological Association's World Congress of Epidemiology. 2021. Sep. Online [Oral]
27. Ota M, Ito Y, Taniguchi K, Hori M, Katanoda K, Uchiyama K, Matsuda T: Trends in patterns of treatment and survival of colorectal cancer patients using population-based cancer registry data in Japan: 1995-2015. In: 第80回日本癌学会学術総会: 2021/10/2 2021; 2021.
28. 太田将仁, 伊藤ゆり, 渡邊ともね, 市瀬雄一, 山元遥子, 力武諒子, 松木明, 新野真理子, 坂根純奈, 東尚弘, 若尾文彦: 院内がん登録・DPC・現況報告からみるがん診療連携拠点病院における標準治療実施の現状. In: 第32回日本疫学会学術総会: 2022/1/26-28 2022: 東京/ハイブリット; 2022: OD-074[口演].
29. 片岡葵, 太田将仁, 谷口高平, 小村和正, 伊藤ゆり: がん登録と生体試料のレコードリンケージデータによる大腸がんの臨床・疫学研究に関するシステマティックレビュー. In: 日本がん登録協議会第30回学術集会: 6月 2021; オンライン; 2021: (オンライン) [口演].
30. 太田将仁, 新城安彦, 松本吉史, 伊藤ゆり, 東尚弘: がん診療連携拠点病院現況報告における院内がん登録の活用に関する検討. In: 日本がん登録協議会第30回学術集会: 6月 2021; オンライン; 2021: 02-01[口演].
31. 片岡葵, 福井敬祐, 佐藤倫治, 西岡大輔, 菊池宏幸, 井上茂, 近藤尚己, 中谷友樹, 伊藤ゆり: 人口規模・社会経済状況を考慮した健康寿命の都道府県内格差の計測. In: 第32回日本疫学会学術総会: 2022/1月 2022; オンライン; 2022: 0-012[口演].

#### R4年度

1. 若尾文彦 臨床知識を伝える 第7回日本臨床知識学会学術集会 2023.2 東京
2. 若尾文彦 国の第4期がん対策推進基本計画 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会 2023.3 福岡
3. 谷山智子, 下村昭彦, 清水千佳子, 瓜生英子, 稲垣剛志, 大石元, 田辺晶代, 久保田修司, 清谷知賀子, 松本公一: 「小児がん経験者(CCS)の移行期医療(トランジション)に対する当院の取り組みと課題 -トランジション・モデル構築の経験から-」. 第19回日本臨床腫瘍学会 2022.2.17 京都、口演
4. Ito Y, Fukui K, Katanoda K, Nakaya T, Higashi T, Sobue T: Monitoring of area-based

- socioeconomic inequalities in cancer survival using nationwide population-based cancer registry data in Japan. In: The International Conference on Health Policy Statistics: 2023; Scottsdale, AZ; 2023: Poster 007.
5. 伊藤ゆり. 本邦におけるサバイバーシップ研究の現状と課題. シンポジウム 10 がん経験者の二次がん、晩期合併症の課題と対応. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2023/3/16. 博多
  6. 片岡葵, 太田将仁, 谷口高平, 小村和正, 伊藤ゆり: 2010-2019年の健康寿命・平均寿命とその格差の推移: 市区町村別社会経済指標による評価. In: 第33回日本疫学会学術総会: 2023/2 2023; 浜松: [Poster]; 2023.
  7. 岡 愛実子 片葵 中友, 上田 豊, 伊藤 ゆり: 人口動態統計を用いた婦人科がんにおける年齢調整死亡率の市区町村別地域指標との関連とその推移. In: 第33回日本疫学会学術総会: 2023/2 2023; 浜松: [Poster]; 2023.
  8. 谷山 祐香里, 尾瀬 功, 小柳 友理子, 伊藤 ゆり, 松田 智大, 松尾 恵太郎, 秀美 伊: 住民ベースのがん罹患情報を用いた非小細胞肺癌患者の予後における分子標的薬による影響の評価. In: 第32回日本疫学会学術総会: 2022.1 2022; オンライン; 2022: O-23[口演].
  9. 太田将仁, 坂根純奈, 片岡葵, 西岡大輔, 松本吉史, 谷口高平, 伊藤ゆり: 消化器がん患者の社会経済指標と生存率の関連 単施設の院内がん登録とDPCのリンケージによる検討. In: 日本がん登録協議会第31回学術集会: 2022/6/3 2022; 長野, 信州大学医学部附属病院: [一般口演]; 2022.
  10. 伊藤ゆり: 健康格差を測る ～地域指標と健康アウトカムの関連～. In: 第7回日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会: 2022/12/2 2022; 東京: 特別講演4; 2022.
  11. 本莊哲, 伊藤ゆり, 赤星進二郎, 松村千恵子, 河原信彦, 金井正朗, 山本重則, 重田みどり, 後藤一也: 重症心身障害者におけるがん医療の実態調査-NHO 重症心身障害ネットワーク研究. 第29回がん予防学術大会プログラム・抄録集 2022:63.
  12. 本莊 哲, 伊藤 ゆり: 重症心身障害者における大腸がん 運動習慣がない集団における検討 (Colorectal cancer among persons with severe motor and intellectual disabilities who do not practise physical activity). 第81回日本癌学会学術総会 2022, 81:P-3361.
  13. 片岡葵, 太田将仁, 谷口高平, 小村和正, 伊藤ゆり: 院内がん登録・生活習慣アンケートをリンケージしたバイオバンクデータベースの活用に向けて:大阪医科薬科大学の取り組み. In: 第29回がん予防学術大会: 2022/7 2022; 京都: [口演]; 2022.
  14. 福井敬祐, 伊藤ゆり, 片野田耕太: 都道府県別にみるがん年齢調整死亡率の推移予測ツールの開発. 第29回がん予防学術大会プログラム・抄録集 2022:44.
  15. 柘植 博之, 谷山 祐香里, 川北 大介, 小柳 友理子, 尾瀬 功, 伊藤 ゆり, 松田 智大, 岩崎真一, 松尾 恵太郎, 秀美 伊: 地域がん登録データから求めた喉頭がん生存率の経時的変化 (Changes in survival of laryngeal cancer by period: data from population-based cancer registries.). 第81回日本癌学会学術総会 2022, 81:E-3037
  16. 伊藤 ゆり, 堀 芽久美, 福井 敬祐, 太田 将仁, 中田 佳世, 杉山 裕美, 伊藤 秀美, 大木 いずみ, 西野 善一, 宮代 勲, 澤田 典絵, 片野田 耕太, 柴田 垂希子, 松田 智大: When is cancer survivors' risk of death the same as the general population? timing of 100%+ conditional 5-year survival In: 第81回日本癌学会学術総会: 2022/10/1 2022; 神奈川, パシフィコ横浜: [口演]; 2022: English Oral (E24)
  17. 伊藤 ゆり: 社会環境の評価指標. In: 第9回生存科学シンポジウム 「健康な社会の実現を目指して」—最近の研究から—: 2022/12/10 2022; 東京: [シンポジウム]; 2022.
- H. 知的財産権の出願・登録状況



(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし

2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし